



一般 電池工業会
社団法人 BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011
東京都港区芝公園三丁目5番8号
機械振興会館内
電話 (03) 3434-0261 (代)
ホームページ <https://www.baj.or.jp/>
ご意見・お問い合わせ <https://www.baj.or.jp/contact/>
発行人 清水義正

2025年12月号

第 117 回 二次電池第 2 部会を開催

2025年12月4日（木）、松村部会長（GSユアサ株式会社）を議長に、第117回二次電池第2部会を機械振興会館での対面会議で開催した。開会に際して、BAJ競争法コンプライアンス・ルールを遵守することが確認されたのち、松村部会長ならびに清水専務理事より挨拶があった。続いて前回議事録の確認後、各委員会の代表者より、これまでの活動報告を行った。



松村部会長



清水専務理事

1. 部会長挨拶

昨今、中国との関係で、いまのところビジネスに直接的な影響はないかもしれませんが、為替、法規制、ELV 規則など、海外の動向に注視しなければならない状況が続きます。

本日、いろいろな報告がありますので、議論させて頂きたく、宜しくお願いします。

2. 専務理事挨拶

11月18日から20日、第66回電池討論会が開催されました。新しい技術が根付いている産業で電池業界は恵まれていて大変喜ばしいと感じました。

12月2日、BAJ主催で第6回新種電池講演会を開催しました。出席者89名で、正会員企業が賛助会員企業に新しい技術の進化を提供する場として実施しております。活発な意見交換があり、委員の方の準備に感謝しており、賛助会員にアピールできたと思っております。

2025年度の活動計画に積み残しがないよう最終確認をして頂きたいと思います。年明けには2026年度事業計画の検討が始まりますので、部会として取り組まなければならないことを考えて頂きたい。費用の使い方には責任を持って、きちんとした成果を目指して策定頂くよう、宜しくお願い致します。

3. 各委員会報告

◆技術委員会

(1)各分科会報告

<リチウム二次分科会>

- ・IEC62133-2(ポータブルリチウム二次安全)改訂：コイン二次分科会より、内部抵抗の測定規定について韓国側との協議についての報告があり、内部抵抗はIEC 61960-4:2024で測定されたものを用い、内部抵抗が3Ω以下のコインセルを型式試験の対象に含めることに合意。

<LIB安全性技術WG>

- ・JARIで検討しているAlt.ISC試験において、円筒形セルの外装缶除去方法確認ならびに角形セルは集電箔間短絡発生条件を特定する試験が実施される予定。

<据置LIB分科会>

- ・IEC63056 ED2(蓄電池システムLIB安全) CD対応実施。

- ・JETより経産省にJIS C 8715-2の類焼試験を必須とするべきと提言があり、JET/経産省/BAJで協議をおこなった。JIS C 8715-2はIEC62619のミラー規格であり、産業用LIB全般を対象とする規格で、JIS C 8715-2で類焼試験を必須とすると、用途によっては過剰な要求となるため不適切であり、製品規格JIS C4441で個別に設定するべきと説明し、理解を得た。

<非駆動用車載LIB分科会>

- ・四輪自技会補機LIB WGで進めているJASO-TPの発行内容が確定した。

<ニカド・ニッケル水素分科会>

- ・IEC 61951-1(ポータブル機器用途 Ni-Cd 電池性能)/IEC 61951-2(ポータブル機器用 NiMH 電池性能) ED5 対応：11月7日にCCが発行され、CDV移行が承認された。今後の計画は、2025年12月にCDV、2026年8月にFDIS、2027年1月にIS発行予定。

<産業用ニッケル水素分科会>

- ・IEC63115-1(産業用 Ni-MH 性能)、IEC63115-2(産業用 Ni-MH 安全)の改訂対応：10月30日のSC21A WG1会議でCDV移行が合意された。
- ・IEC 62675 ED2(密閉型 Ni-MH 角形単電池)改訂対応：FDIS移行が可決された。

<PSE WG>

- ・モバイルバッテリーの技術基準としてはJIS C 62368-1の適用が望ましいとされているが、JISの所管である第108委員会は電気用品調査委員会に、電気用品名欄にモバイルバッテリーは記載しない方針を示した。

<蓄電システムWG>

- ・国土交通省の建築設備計画基準及び資料、建築設備設計基準及び資料の改定作業対応：改定一次案の受領は当初より遅れ11月末になる見込みであるが、全体スケジュールに影響なく順調。

<リユース規格分科会>

- ・BAJ HPのリチウムイオン二次電池の再利用について、Q&A素案を作成、分科会に

て審議を行い、内容を決定後、技術委員会での報告など確認を経て、HPにQ&Aを追加予定。

<CFP規格分科会>

- ・SC21A WG6 会議(ワシントン D.C.)で、IEC 63369-1(産業用 LIB CFP 計算規則)が FDIS 承認される見込みであることが報告された。規格策定のフェーズは、実計算を扱う「Part2」およびデータ集である「Part3」の策定へ移行するが、二次データの不在が最大の課題となる。そのため、経済産業省や関連する業界団体(BASC等)との連携を継続的に進めていく。

(2)技術委員会対応の活動報告

① BASC 主催 ISO/TC333 国内委員会対応

- ・正極活物質の PCR(Product Category Rule)の CFP 計算方法が中国から提案された。中国が優位になっているため、米国等から反対意見を出し、提案は否決された。

◆国際電池規格委員会

- ・10月28日から31日、ワシントン D.C.で、16か国74名参加で、SC21A 会議が開催された。日本電池メーカーに過度な負担となる規格はなく、新エキスパート2名が参加した。中国の提案が活発で3件新規提案があり、日本のリソースが不足するため、中国の動向に注視する。また、新エキスパートの国際会議参加を継続する。

主な審議結果は、IEC62133-2(ポータブルリチウム二次安全)の技術審議が終了、IEC63056(蓄電池システム LIB 安全)は家庭用とシステム用に分割、中国提案のセル安全グレード規格と製造工程におけるESD管理は却下、CATL 提案の航空機用 LIB 安全規格は要調査。

- ・WG4、SC21A 会議に現地参加した新エキスパートからは現地参加の意義、信頼関係の構築の重要性を感じて頂いた。
- ・2026年4月、WG 会議(リモート)、2026年11月、WG+Plenary 会議(ハンブルク)を予定。

◆国際電池輸送委員会

1.2 国連危険物輸送専門家小委員会(11月24日から12月5日)

- ・リチウム電池に関係する正式提案10件、非公式文書2件の審議を実施した。審議後、非公式文書が全部で55件提案されたが、電池に影響がありそうな案件はなかった。

国内検討会が11月5日に開催され、小型全固体 LIB の非公式文書を提出することが報告されたが、実際には文書は提出せず、類似提案にコメントすることで対応した。

会議には委員会から2名、WGから1名が現地で参加。

1.3 ICAO DGP-WG30 会議(10月6日から10月10日)

- ・委員会から2名が現地参加し、リチウム電池の航空輸送に関する正式提案7件、非公式提案5件が審議された。リチウム電池単体輸送に大きな影響を与える決定事項はない結果であった。一方、Mobility Aid(電動車椅子)に関する安全リスク管理、パワーバンクに関する携行の条件については様々な議論がされたが、現状認識の記載内容で採択するに至り、議論は継続される。

1.4 SAE G-27 会議

- ・Generic Package の安全マージン確認のため、より厳しい18650円筒セルによる2セル同時発熱試験やUN-IWGのハザードベース区分で進めているガスと容量の分析、相関性について小型電池で確認を実施。基準書の更新版の投票を進めたい意向。

2. 小型全固体 LIB 輸送 WG

- ・規制緩和を早期達成するために、燃焼試験で発火しない電池を除外するという日本独自提案も実施することとし、国連会議に非公式提案を作成したが、上述したように、類似提案にコメントすることで対応。

◆普及促進委員会

1. 普及促進委員会

- ・2026年3月、経産省への提言に向けて、3つのチームを編成して議論を実施。

①国内電池産業支援では、設備投資補

助金要件の変更を電池産業課に説明したが、大義が充分ではないという結果で再検討。また、低 CFP 化取組支援については年度末に向け、日中韓の CFP 比較などブラッシュアップを行っている。

②資源リサイクル推進は、今年度の提言は見送るが、BASCと定期的な交流を行う。

③エネルギー安全保障としては、系統用蓄電池への補助金が日本製電池に有利になるよう、レジリエンス性強化のため国内にセル在庫を配備すること、セル供給源の多角化のため日本以外の国 1 国当たりの上限を設けること、発煙・発火事故に対する規制強化について、具体的な内容を精査している。また、JEMA と連携について意見交換した。

2. 定置用 LIB 普及強化 WG

・日本製 LIB の優位性を定量評価するため、海外製蓄電(LFP)システムを入手し、セルの調査、充放電プロファイル測定を行い、今後、セルの釘刺し、蓄電ユニットの類焼試験と発生ガスの評価を進める予定。

3. 法規 WG

・消防法の特例通知の一覧表作成
・リチウムイオン電池を用いた蓄電池設備が労働安全衛生法における化学設備に該当するかどうか審議したが結論が出ず、化学設備として判断されそうになった場合は改めて対応する。

◆PL 委員会

・消費者庁事故発生推移報告
モバイルバッテリーは普及台数増加に伴い 24、25 年度は急増、25 年 7-9 月は過去最高 95 件発生、スマートフォン、ノートパソコンは年々減少、電動アシスト自転車は微増、充電式掃除機は増加傾向、ポータブル電源はモバイルバッテリーと同様に年々増加、25 年 7-9 月は過去最高 24 件発生。
新たに、ハンディファン、ファン付き作業着を調査したが、上記製品に比べ件数は少なかった。
・事故低減のアクションとして、関連委員会と協力して啓発活動を推進する。

◆再資源化委員会

・資源有効利用促進法施行令の意見公

募が開始され、委員会で確認した結果、意見出しは行わなかった。2026 年 2 月に改正施行規則が公布される予定で、スケジュールを確認中。

・環境省から通知された自治体での回収について、JBRC による回収への影響を確認しているが、大きな変更点はない。一方、市町村では試験回収を開始した動きはできている。

・識別表示ガイドラインは資源法が確定した内容に合わせ、ある程度状況が見えてから確認を進める。

◆広報総合委員会

(1) PR 活動

① コイン形・ボタン形電池の乳幼児誤飲事故防止

・育児系アプリ“mamari”に 11 月 4 日、啓発記事を掲載。クリック数は 159 回。

・you tube 配信を 12 月に実施予定。

② 自動車用バッテリーの定期点検・買い替え促進

・you tube 配信を 12 月上旬に実施予定。スキップが出来ない配信を見ていただく。年齢層やターゲット毎の広告を実施。

・11 月 25 日、プロ野球最優秀バッテリー賞を実施。

③ 小型充電式電池の回収・リサイクル、廃棄時の注意喚起

・you tube 配信予定。ターゲティングを絞らず、幅広い層に見ていただく。

・ガジェット系 Youtuber によるショート動画の内容検証中。12 月の完成を目指す。

(2) キャンペーン

・11 月 11 日から 12 月 12 日の電池月間を利用してクイズを実施。11 月 27 日現在、応募は 5,140 名。

(3) イベント活動

・9 月 27 日、静岡で電池フェスタを実施。310 名の親子に参加頂いた。

◆国際環境規制総合委員会

1.2 ICBR(国際電池リサイクル会議)@パレンシアに参加(9 月 10 日から 12 日)

- ①市場 ②法規制 ③回収状況 ④リサイクル技術 ⑤ CFP ⑥リユース・セカンドユース ⑦循環経済のテーマで、大きな柱だった安全性のテーマは、今回はなかった。リサイクルする電池の材料系の講演は NMC が中心だったが、LFP についての発表もあった。

1.3 TWG+ 会議@メキシコシティに参加 (10月2日、3日)

- ・BAJ、ALPiBa、PRBA、EPBA、CESA から環境規制の最新状況とリサイクル法規制やリチウムイオン電池の火災事故などが報告された。

1.4 地域環境情報

(1) 欧州

- ・ECHA は 2026 年 3 月から開始される PFAS 制限提案の SEAC 意見書草案の公開協議の進め方に関するウェビナーを 2025 年 10 月 30 日に開催した。意見公募については、2023 年の公募とは違い、添付資料、表、リンクなどを使用することはできない。12 月中旬にガイダンス文書が発行される予定。

(2) 北米

- ・ミネソタ州は PFAS 規制法の実施規則である報告・料金案が欠陥等で「不承認」となった。
- ・ニューメキシコ州 PFAS 含有製品規制法の実施規則案が 2025 年 10 月 8 日に公表された。PFAS 含有製品へのラベル表示が含まれていて、2026 年 7 月 1 日に発効する。

(3) アジア

- ・中国 RoHS 規制の強制国家標準「電気電子製品有害物質使用制限要

求」(GB 26572-2025)を 2025 年 8 月 1 日に公布し、2027 年 8 月 1 日から施行される。

- ・ベトナムで、拡大生産者責任に関する政令の改正案を 2025 年 6 月 18 日に公開した。

4. JBRC 報告

以下の報告があった

I. 会員状況

II. 回収状況 (2025 年度 4-9 月累計)

III. 具体的施策実施

1. 再資源化活動の深耕と強化
2. 持続可能な経営体制づくり
3. 10 月度回収実績

5. 事務局報告

- ・10 月 14 日、BATON(Battery Advanced Talent Outreach Network)設立を発表。

<https://www.baj.or.jp/about/s5bh8o000001dm3.html>

- ・環境省は、ゴミ処理場・収集車の LIB 火災事故増加を受け、9~12 月を「火災防止強化キャンペーン」と設定し周知啓発を実施中。BAJ/JBRC も LiB パートナーに参画。

https://www.baj.or.jp/public_relations/s5bh8o000001e9k.html

- ・中国 MIIT がモバイルバッテリー安全技術規範を公開し、意見募集を開始した。
- ・次回、二次電池第 2 部会は 2 月 5 日 (木) 機械振興会館 6D-4 会議室で開催予定。

以上

2025年プロ野球最優秀バッテリー賞 表彰式

「2025年プロ野球最優秀バッテリー賞」（主催：スポーツニッポン新聞社、協力：一般社団法人電池工業会）の表彰式が2025年11月25日（火）、東京ドームホテルで開催された。

1991年本賞創設当時から電池工業会は協力しており、スポーツニッポン新聞社様には、夏と冬に自動車用バッテリーの注意喚起記事など、電池工業会の広報活動にご協力いただいている。

スポーツニッポン新聞社が制定する「プロ野球最優秀バッテリー賞」は、投手だけでなく、日ごろは緑の下の力持ち的な存在の捕手にもスポットをあて、その年のセ・パ両リーグのナンバーワンバッテリーを選出し表彰する。セ・リーグは、阪神タイガースの村上頌樹投手－坂本誠志郎捕手が、パ・リーグは北海道日本ハムファイターズの伊藤大海投手－伏見寅威捕手がいずれも初受賞。

電池工業会から清水専務理事がプレゼンターとして出席し、各受賞者に自動車用バッテリーとアルカリ乾電池560本（単3＝280本、単4＝280本）の副賞を贈呈した。表彰式後のプレスインタビューでは、恒例の「乾電池の使い方」の質問に対し、趣味が釣りの伊藤投手は、「夜釣りはヘッドライトで電池を使う。出し惜しみせず光らせようと思う」と有効的な使い方を明かした。



阪神	電池工業会	日本ハム		
村上投手	坂本捕手	清水専務理事	伊藤投手	伏見捕手

電池工業会より副賞贈呈式の様子



阪神 村上投手



阪神 坂本捕手



日本ハム 伊藤投手



日本ハム 伏見捕手

2025年11月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議、他	10日(月)	新種電池研究会	新種電池に関する情報交換他
	12日(水)	蓄電池設備認定委員会	蓄電池設備 資格登録の審査、型式認定の審査
	14日(金)	国際環境規制総合委員会	地域別アップデート、海外出張報告
	14日(金)	広報総合委員会	次年度 事業計画検討
	19日(水)	蓄電池設備整備資格者講習実施委員会	東京都②、鹿児島県会場の修了考査判定
二次電池部会	7日(金)	自動車鉛分科会	SBA規格 G 0101自動車用鉛蓄電池の安全取扱い指針 改正案審議
	7日(金)	充電器分科会	JIS C 4402 改正審議 他
	10日(月)	自動車技術サービス分科会	新規リーフレット製作に関する打合せ
	11日(火)	充電器分科会	JIS C 4402 改正審議 他
	12日(水)	資材委員会	(25年度)共用金型 更新状況確認(26年度)金型候補 検討
	13日(木)	産電技術サービス分科会	バッテリーテストの現状の調査
	18日(火)	産電リサイクル委員会、広域認定分科会	広域331号変更申請準備、広域マニュアル作成
	20日(木)	用語分科会	「SBA規格票改正の手引き」一部改正審議
	26日(水)	据置鉛分科会	JIS C 8704-1 改正案審議
	26日(水)	PL委員会	表示ガイドライン改訂作業、安全報告ルールの確認他
28日(金)	技術委員会	IIEC 60095-8 CDVコメント審議	
二次電池第2部会	5日(水)	法規WG	蓄電池の規制適正化検討
	5日(水)	PSE WG	技術基準解釈改正等の対応についての整理
	5日(水)	CFP規格分科会	産業用LIBのカーボンフットプリント規格対応
	7日(金)	LIB安全性技術WG	内部短絡試験に関する技術検討
	10日(月)	リチウム二次分科会	IEC62133-2 ED2、IEC91960-3 AMD審議
	13日(木)	国際電池規格委員会	IEC ANSI規格 検討 審議
	14日(金)	非駆動用車載LIB分科会	非駆動用LIBのIEC規格策定
	14日(金)	小型全固体LIB輸送WG	小型全固体LIBの輸送規制に関する検討
	18日(火)	据置LIB分科会	産業用LIBのIEC規格対応
	18日(火)	国際電池輸送委員会	危険物輸送の国際会議に関する対応
	19日(水)	普及促進委員会	蓄電池の普及促進に関する提言検討
	19日(水)	定置用LIB普及強化WG	蓄電池の普及強化に向けた戦略実現検討
	21日(金)	再資源化委員会	蓄電池再資源化に関する対応
	21日(金)	PL委員会	安全啓蒙施策、事故情報集計
26日(水)	技術委員会	技術全般に係る審議事項への対応	
27日(木)	ニカドニッケル水素分科会	性能規格の改訂審議	
28日(金)	産業用ニッケル水素分科会	IEC規格検討	
池一次電	5日(水)	資材委員会	原材料の需給・価格動向の分析
	12日(水)	規格委員会	IEC60086-1,-2-1,-2-2, 86-4, 62281, JIS C8513審議
	13日(木)	規格委員会	IEC60086-5,-6, MT17審議
	14日(金)	コイン形リチウム二次分科会	IEC61960-4 ED2 AMD, IEC62133-2 ED2 審議

9 月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2025年 9月）

（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2011年1月より経済産業省の機械統計は「マンガン乾電池」を「その他の乾電池」に統合されました。

2011年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「小形制御弁式」が含まれました。

2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました。

「その他の鉛蓄電池」は「二輪自動車用」、「小形制御弁式」を含む。

（2011年～2012年は経済産業省機械統計の「酸化銀電池」は「その他の乾電池」を含む）

2012年より経済産業省の機械統計が「リチウムイオン蓄電池」は「車載用」が新設されました。

（2011年までの「リチウムイオン蓄電池」には「車載用」は含まれていません）

「その他の乾電池」を削除する。（2013年経済産業省機械統計より）

2017年9月より経済産業省機械統計のアルカリ乾電池「単三」「単四」は公開されていません。

2022年1月より経済産業省の機械統計は「その他のアルカリマンガン乾電池」は「アルカリ乾電池計」に統合されました。

2022年7月より経済産業省の機械統計は「アルカリ蓄電池(ニッケル・水素電池)」「その他のアルカリ蓄電池」は「アルカリ蓄電池計」に統合されました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	364,827	139,980	95%	99%	2,976,084	1,130,091	105%	99%
一次電池計	243,713	10,400	102%	107%	2,074,185	87,229	108%	106%
酸化銀電池	65,032	2,051	102%	113%	572,623	18,521	119%	125%
アルカリ乾電池計	93,105	3,580	94%	93%	812,439	32,122	98%	95%
単 三	-	-	-	-	-	-	-	-
単 四	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-
リチウム電池	85,576	4,769	112%	118%	689,123	36,586	114%	108%
二次電池計	121,114	129,580	83%	98%	901,899	1,042,862	97%	98%
鉛電池計	2,610	21,077	106%	103%	21,161	172,377	103%	106%
自動車用	2,057	14,480	108%	112%	16,375	111,980	103%	107%
その他の鉛蓄電池	553	6,597	100%	87%	4,786	60,397	101%	105%
アルカリ蓄電池計	35,437	25,173	105%	106%	296,367	202,919	109%	77%
ニッケル水素	-	-	-	-	-	-	-	-
その他のアルカリ蓄電池	-	-	-	-	-	-	-	-
リチウムイオン蓄電池計	83,067	83,330	76%	95%	584,371	667,566	92%	105%
車載用	50,790	59,956	62%	83%	353,709	506,245	80%	98%
その他	32,277	23,374	120%	151%	230,662	161,321	120%	134%

9 月度電池輸出入実績（財務省貿易）

（2025年 9月）

（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2012年より二次電池の輸入項目「その他の二次」が「ニッケル水素」「リチウムイオン」「その他の二次」に分かれました。

2016年より一次電池の輸入項目「アルカリ」が「アルカリボタン」「アルカリその他」に分かれました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	187,794	81,020	91%	113%	1,570,661	615,909	106%	105%
一次電池計	112,164	3,944	106%	105%	1,017,211	36,497	120%	116%
マンガン	20	1	-	-	60	2	-	-
アルカリ	8,955	196	86%	76%	95,341	2,207	111%	103%
酸化銀	60,181	1,631	116%	119%	516,317	14,888	122%	123%
リチウム	43,009	2,115	99%	104%	405,492	19,289	121%	115%
空気亜鉛	0	0	0%	0%	0	0	0%	0%
その他の一次	0	0	0%	0%	0	110	20%	31%
二次電池計	75,630	77,076	76%	113%	553,450	579,413	87%	104%
鉛蓄電池	146	1,279	102%	96%	1,196	10,760	100%	101%
ニカド	182	65	57%	71%	1,262	658	80%	114%
ニッケル鉄	0	0	-	-	0	0	-	-
ニッケル水素	9,048	16,043	82%	117%	85,815	136,747	89%	107%
リチウムイオン	52,505	54,994	69%	113%	359,947	389,407	80%	106%
その他の二次	13,749	4,695	114%	109%	105,229	41,841	117%	84%
全電池合計（輸 入）	116,673	51,872	110%	124%	1,153,054	411,219	108%	99%
一次電池計	108,960	2,485	110%	116%	1,080,273	24,174	109%	110%
マンガン	6,579	115	135%	139%	66,815	1,162	103%	104%
アルカリボタン	1,647	17	87%	124%	25,057	255	119%	117%
アルカリその他	80,669	1,293	108%	104%	824,895	13,368	109%	109%
酸化銀	172	9	109%	118%	1,544	88	106%	120%
リチウム	14,063	953	109%	155%	119,076	7,305	113%	130%
空気亜鉛	5,828	94	124%	110%	42,852	830	89%	87%
その他の一次	1	5	64%	5%	34	1,166	52%	64%
二次電池計	7,712	49,387	107%	125%	72,781	387,044	107%	98%
鉛蓄電池	726	5,135	93%	110%	7,533	47,128	106%	106%
ニカド	44	124	78%	56%	470	1,566	92%	78%
ニッケル鉄	0	0	-	-	0	0	-	-
ニッケル水素	1,639	447	102%	126%	15,569	3,902	97%	114%
リチウムイオン	5,238	40,339	110%	143%	48,566	308,978	109%	108%
その他の二次	65	3,341	313%	53%	643	25,469	651%	43%